

海運実務研修講座のご案内

2019年度予定および2018年度実績
(東京開催講座)



2019年3月

一般社団法人 日本海運集会所
セミナーグループ

- 注 ・セミナー会場は、特別な記載がない限り、日本海運集会所の会議室です。
- ・各講座の定員は50名です。
 - ・講師、内容等は変更になる場合があります。
 - ・各講座の1回あたりの講義時間は、原則として90分です。

記号について

- ★ 入門・初級 → 新人および実務経験1年程度向き
- ★★ 初・中級 → 実務経験1～3年程度向き
- ★★★ 中級以上 → 実務経験3～5年程度向き

改 前回より内容、講座名、回数等の変更あり

海運実務研修講座 もくじ

NO	テーマ	レベル	2019年度開催予定日	ページ
1	<small>〈A日程〉</small> 新人社員研修(春)(連続2日間)	★	4月23日、24日	5
2	船の技術知識あれこれ(全1日)	★	4月26日	6
3	英文契約書入門(全5回)	★★	5月10日、17日、24日、31日、6月7日	7
4	<small>〈B日程〉</small> 新人社員研修(春)(連続2日間)	★	6月5日、6日	8
5	コンテナ物流の基礎(全3回)	★★	6月10日、17日、24日	9
6	[改]共同海損基礎(全2回) <small>※旧 共同海損基礎とイギリス船舶保険マーケット等について(全3回)</small>	★	6月12日、19日	10
7	海上物品運送契約(外航)入門(連続2日間)	★★	6月13日、14日	11
8	船荷証券の基礎(全3回)	★★	6月21日、28日、7月5日	12
9	船舶保険 入門(全3回)	★	6月頃	13
10	トランプオペレーターの実務(連続2日間)	★	6月頃	14
11	港湾・物流基礎(全1日)	★	7月3日	15
12	税務・会計基礎(全2回)	★★	7月10日、17日	16
13	船荷証券の実務上の問題点(中級)(全3回)	★★★	7月12日、19日、26日	17
14	[改]貿易実務 入門(全1日) <small>※旧 貿易実務基礎(全3回)</small>	★	8月6日	18
15	オフショアエネルギー保険の基礎(全1日)	★★	9月頃	20
16	船舶管理実務(全2日)	★★	9月頃	21
17	[改]“実務家の為の”具体的事例で学ぶクレーム対応	★★	9月頃	22
18	海技の知識(全3回)	★★	10月頃	23
19	ドリルシップ・オフショア支援船・FPSOを とりまくリスクと契約上のリスク分担(全2日)	★★★	10月頃	24
20	外航貨物海上保険 入門(全3回)	★	10月頃	25
21	不定期船実務の基礎知識(全9回)	★★	10月頃	26
22	[改]ドライバルク航海傭船契約(全3回) <small>※旧 航海傭船契約におけるLaytimeの基礎知識(ドライバルク中心)</small>	★★	11月頃	28
23	新人社員研修講座(秋)(連続2日間)	★	11月頃	29
24	P&I保険の基礎(全4回)	★	11月頃	30
25	入門 会計と海運業(全3回)	★	11月頃	31
26	内航海運概論(全1日)	★	1月頃	32
27	造船契約の諸問題に対する実務対応(全1日)	★★★	1月頃	33
28	タンカー航海傭船契約(全3回)	★★	2月頃	35
29	船舶保険実務(中級)(全2回)	★★	2月頃	36
30	設問式船舶金融論(全2日)	★★	3月頃	37
31	定期傭船契約(全4回)	★★	3月頃	38
32	船舶売買の実務(全3回)	★★★	3月頃	39
33	エナジー関連講座(仮)	-	未定	40
-	トラブル回避のための貿易実務(中級編)	★★	休講	41

海運実務研修講座 1 「新人社員研修(春)(連続2日間)」<A日程>		★
船で世界の荷物を運ぶ 海運の基礎を学ぶ		
今年度 予定	4月23日(火)、24日(水) 13:30～17:00(初日は講義終了後18:30まで懇親会)	

昨年度実施状況

日時	2018年5月23日(水)、24日(木) 13:30～17:00(初日は講義終了後18:30まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	入門・初級 新人社員および新人、中途入社社員	
概要	<p>業界を熟知する3名の実務家に講師を依頼し、二日間にわたり新人社員・中途入社の方々を対象に、下記のとおり海運実務研修講座「新人社員研修(春)(連続2日間)」を開催いたします。今年は、5月と6月と二度開催いたします。</p> <p>初日は、疑似航海のストーリーや海運の歴史を絡めながら、商船運航のしくみを学びます。二日目は、今日の海事産業の全体像を把握し、海運につきもののリスクとこれを回避するための保険について学びます。</p> <p>本講座は、海運業の経済上の役割の大きさやその仕事の特殊性を理解し、これから携わる業務の礎としていただくことを目的としています。</p> <p>また、一日目の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。</p>	
内容	5月23日 (水)	第一部 13:30～17:00 (途中休憩有) 『商船の運航・基礎編』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上貨物輸送の現状(日本海運と便宜置籍船、船員リソース) ・船の諸元(長さ、幅、深さ、喫水、トン数、速度、操縦性能) ・航海実務(入出港、大洋航海、航海計画、荷役、航海計器、当直体制、パナマ運河、スエズ運河) ・船舶管理 ・安全運航管理(海難事故、海賊対策、ISMコード) ・商船の環境対策(燃費・CO2排出) ・その他、船の現状(船内生活、通信、健康管理)
		講師：日本海洋科学 取締役相談役 関根 博 氏 第二部 『懇親会』 17:00～18:30 <ul style="list-style-type: none"> ・異業種の方とお話しできる場でもあります。積極的にご参加ください。
	5月24日 (木)	第一部 13:30～15:00 『海運ビジネスの基礎』 <ol style="list-style-type: none"> 1. 船の種類と海運業の事業部門 (1) ドライバルカー (2) タンカー (3) 自動車船 (4) コンテナ船 2. 海運ビジネスの仕組み (1) 船主と傭船者 (2) 傭船契約と船荷証券 (3) 海運業の費用構造 3. 海運と海事クラスター (1) クラスターの構成者 (2) 各事業概要 4. 海運を取り巻く現状 (1) 環境規制 (2) スマート SHIPPING
		講師：商船三井 ドライバルク営業統括部 統括グループリーダー 岩佐 竜至 氏 休憩 15:00～15:30 第二部 15:30～17:00 『船舶保険/P&I保険の概要』 <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の成り立ち ・海上保険の全体像 ・船舶保険の種類とその概要 ・P & I 保険の概要
		講師：損害保険ジャパン日本興亜 海上保険室船舶保険グループグループリーダー 宮本 光洋 氏

海運実務研修講座 2 「船の技術知識あれこれ(全1日)」

船のことがよく分かる！ 知っていた方が得なメカニズム



今年度 予定	4月26日(金曜日) 13:30～17:00(途中休憩有)
-------------------	----------------------------------

昨年度実施状況

日 時	2018年4月24日(火曜日) 13:30～17:00(途中休憩有)
場 所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む。
定 員	50名(JSE会員優先／先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対 象	入門・初級 若手社員、自身の知識整理・再確認したい中堅の方
講 師	MOLシップテック 相談役 横田 健二 氏
略 歴	1977年東京大学工学部船舶工学科卒業。同年大阪商船三井船舶(現 商船三井)入社。工務部にて新造船設計、新造船監督、保船等の業務に従事。 1994年技術部設計チーム課長、1996年技術部LNG船プロジェクトチーム課長、1998年技術部副部長、2000年LNG船管理部副部長、2002年技術部副部長、2005年技術部長、2007年執行役員、2009年常務執行役員、を経て2012年MOLシップテック代表取締役社長、2017年より現職。
概 要	本講座では、船の基礎知識から主要目の説明、推進性能・燃費、さらに造船に関わる知識まで幅広く学習します。充実した資料を参照しながら様々な技術用語もできるだけ解説します。 海運・造船に関わって間もない若手社員や、知識をもう一度整理し理解を深めたい中堅の方々を対象とした、体系的に技術知識を得るために最適な講座です。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・造船海運でよく使われる単位 ・主要金属、液体、気体の比重と物性 ・船とは(船の定義、船の分類) ・船型(1.バルカー、2.タンカー・プロダクト船、3.コンテナ船、4.各船種の構造) ・主要目(1.主要寸法、2.トン数、3.船籍船級検査規則、4.主機関、5.主要補機) ・性能・燃費(1.推進性能、2.燃費) ・復元性能(GM) ・海上試運転 ・造船契約(造船契約と関係者) ・建造工程 ・船費 ・検査・修繕 ・塗装(防錆塗料、防汚塗料) ・係船設備 ・造船海運に関わる人

海運実務研修講座 3 「英文契約書入門(全5回)」		★★
契約書を体系的に学び、特有の言い回しや単語の意味を理解する		
今年度 予定	5月10日、17日、24日、31日、6月7日(毎週金曜日) 15:30～17:00	

昨年度実施状況

日 時	2018年5月21日、28日、6月4日、11日、18日(毎週月曜日) 15:30～17:00	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	初・中級 英文契約書の初学者。 ※海運分野における各種契約書講座は、別途実施予定です。	
講 師	小牧 弘幸 氏 ビジネス&法務翻訳者、セミナー講師(英文契約書)	
略 歴	東京外語大学ドイツ語学科を卒業後、1971年日商岩井入社。本社勤務をはじめとし、欧州に11年間駐在。主に船舶(売買・用船)仲介業務に携わる。1994年に日本ウェーブロックに転じ、開発部長、営業部長を経て、理事人事総務本部長を最後に退職。2003年からは在宅翻訳者として、契約書、法律・司法、企業文書(定款・規定・マニュアルなど)の翻訳業の他、翻訳学校や企業などで英文契約書のセミナー講師なども行う。	
概 要	<p>本講座は、まず日本の契約書と英米法の契約書の考え方の違いを学習し、一般的な英文契約書の構成要素を、ひとつずつ読み込んでいきます。次に、英文契約書で使用される用語や表現の法律上の意味、類義語・類例について丁寧な説明を加えながら、豊富な例文に沿って条文を読み解いていきます。さらに、代表的な契約類型の特徴にも触れます。</p> <p>入門講座ですが、中級にかかる程度の学習内容です。本講座で学ぶ、法律の基本用語や表現(言い回し)の解説は、今後、海運に関わる英文契約書を理解するための基礎となります。</p>	
内 容	1	<p><英文契約書の特徴> 日本の契約書と英文契約書の違い・英文契約書の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文契約書は長い ・契約の成立
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・英文契約書の英語 ・表題、頭書、前文、本文、末尾文言、署名 <p><基本用語・表現の解説> ・英文契約書を理解する上で欠かせない基本的な用語・表現</p>
	3	<p><一般条項の解説></p> <ul style="list-style-type: none"> ・定義条項(Definitions) ・当事者間の関係(Relationship of Parties; or Privity) ・秘密保持(Confidentiality) ・不可抗力(Force Majeure) ・契約期間と契約の解除(Term and Termination) ・契約終了後の取り扱い(Effect of Termination) ・契約の譲渡(Assignment) ・準拠法(Governing Law) ・仲裁(Arbitration)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判管轄(Jurisdiction) ・紛争の解決(Dispute Resolution) ・通知(Notice) ・使用言語(Language) ・権利の放棄(Waiver) ・契約条項の可分性(Severability) ・契約の完結性(Entire Agreement) ・見出し(Headings) ・複本(Counterparts)
	5	<p><各種国際契約と代表的な条文></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 売買契約書 (2) 販売店契約書 (3) ライセンス契約書 (4) 合弁契約書 <p><質疑応答></p>

海運実務研修講座 4 「新人社員研修(春)(連続2日間)」<B日程>	
船で世界の荷物を運ぶ 海運の基礎を学ぶ ★	
今年度 予定	6月5日(水)、6日(木) 13:30～17:00(初日は講義終了後18:30まで懇親会)

昨年度実施状況

日時	2018年6月6日(水)、7日(木) 13:30～17:00(初日は講義終了後18:30まで懇親会)
場所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対象	入門・初級 新人社員および新人、中途入社社員
概要	<p>業界を熟知する3名の実務家に講師を依頼し、二日間にわたり新人社員・中途入社の方々を対象に、下記のとおり海運実務研修講座「新人社員研修(春)(連続2日間)」を開催いたします。今年は、5月と6月と二度開催いたします。</p> <p>初日は、疑似航海のストーリーや海運の歴史を絡めながら、商船運航のしくみを学びます。二日目は、今日の海事産業の全体像を把握し、海運につきもののリスクとこれを回避するための保険について学びます。</p> <p>本講座は、海運業の経済上の役割の大きさやその仕事の特殊性を理解し、これから携わる業務の礎としていただくことを目的としています。</p> <p>また、一日目の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。</p>
内 容	<p>6月6日 (水)</p> <p>第一部 13:30～17:00 (途中休憩有) 『商船の運航・基礎編』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上貨物輸送の現状(日本海運と便宜置籍船、船員リソース) ・船の諸元(長さ、幅、深さ、喫水、トン数、速度、操縦性能) ・航海実務(入出港、大洋航海、航海計画、荷役、航海計器、当直体制、パナマ運河、スエズ運河) ・船舶管理 ・安全運航管理(海難事故、海賊対策、ISMコード) ・商船の環境対策(燃費・CO2排出) ・その他、船の現状(船内生活、通信、健康管理) <p>講師：日本海洋科学 取締役相談役 関根 博 氏</p> <p>第二部 『懇親会』 17:00～18:30 ・異業種の方とお話しできる場でもあります。積極的にご参加ください。</p>
	<p>6月7日 (木)</p> <p>第一部 13:30～15:00 『海運ビジネスの基礎』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 船の種類と海運業の事業部門 (1) ドライバルカー (2) タンカー (3) 自動車船 (4) コンテナ船 2. 海運ビジネスの仕組み (1) 船主と傭船者 (2) 傭船契約と船荷証券 (3) 海運業の費用構造 3. 海運と海事クラスター (1) クラスターの構成者 (2) 各事業概要 4. 海運を取り巻く現状 (1) 環境規制 (2) スマート SHIPPING <p>講師：商船三井 ドライバルク営業統括部 統括グループリーダー 岩佐 竜至 氏</p> <p>休憩 15:00～15:30</p>
	<p>第二部 15:30～17:00 『船舶保険/P&I保険の概要』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の成り立ち ・海上保険の全体像 ・船舶保険の種類とその概要 ・P & I 保険の概要 <p>講師：損害保険ジャパン日本興亜 海上保険室船舶保険グループグループリーダー 宮本 光洋 氏</p>

海運実務研修講座 5 「コンテナ物流の基礎(全3回)」

最近のトピックスを材料に基本的知識を解説



今年度 予定	6月10日、17日、24日(毎週月曜日) 15:00~17:00
-------------------	-------------------------------------

昨年度実施状況

日時	2018年5月15日、22日、29日(毎週火曜日) 15:00~17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:22,858円(税別) JSE非会員:42,858円(税別) ※資料代、本代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	コスモ・レジェンド 代表取締役(元 商船三井) 臼井 修一 氏	
略歴	1976年大阪商船三井船舶(現 商船三井)入社。コンテナ営業部門、企画業務部門を経て港湾・流通部門のグループ・リーダーとなりアジア各国の物流センターを立ち上げ、その後、月刊誌「港湾(日本港湾協会発行)」編集委員を務めた。MOLジャパン営業企画部長時代は、本田技研の上海のサービスパーツ物流センターを設営。2007年商船三井退職後は、五十嵐冷蔵にて執行役員を務める。同社の海外における冷凍倉庫事業展開を指揮。2010年コスモ・レジェンドを設立。人材紹介事業、講習会、海外物流関係等コンサルタント事業などを展開中。2014年には、物流大手SBSホールディング社のタイ国シラチャでの大規模物流センターの建設に関するコンサルティング業務を受注し、詳細設計、施工管理を包括的に引受けた。	
著書	実務入門書『コンテナ物流の基礎』(コスモ・レジェンド) http://book.geocities.jp/siena_usui/	
概要	<p>商船三井にて長年コンテナ部門に従事した講師が、著書『コンテナ物流の基礎』を使い、コンテナ船実務の基礎を解説した上で、主要テーマを深掘りして説明します。</p> <p>邦船三社のコンテナ部門の事業統合会社“ONE”のスタートをはじめとする最近のトピックスやエピソードについて解説しながら、これらを材料に、コンテナ船の大型化やアライアンスの変遷などを含め、コンテナ物流に携わる実務者にとって当然知っておくべき基礎知識について深掘りした説明をします。</p> <p>なお、1回当たりの講義時間を120分とし、全3回となっています。また、“質問コーナー”をたっぷり設ける予定です。</p>	
内容	1	<ul style="list-style-type: none"> ・邦船3社の事業統合会社“ONE”のスタートと展望 <ul style="list-style-type: none"> －アライアンスの本質と変遷 ・20000TEU積コンテナ船の登場で変わったこと <ul style="list-style-type: none"> －船社のソロバン勘定 －各航路における投入船型の変化 －パナマ運河拡張のbefore/after ・コンテナ航路とウィークリーサービスの本質
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテナ定期航路の運営のシミュレーションごっこ (あなたもコンテナ航路を運営してみませんか) －収支の構造を説明しながら、様々な費用項目を現場の視点で解説。 －事業統合で経営は安定?
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出入全体の流れとコンテナターミナル ・ユニークな日本の関税制度～輸出入通関のポイント ・B/L(船荷証券)のポイント ・セキュリティ全般
持ち物	電卓(携帯・スマートフォン等の電卓機能も可)	
テキスト	著書『コンテナ物流の基礎』(コスモ・レジェンド)	

海運実務研修講座 6 「共同海損基礎(全2回)」		改
※旧 共同海損基礎とイギリス船舶保険マーケット等について(全3回)		
海上輸送リスクを利害関係者間で分担する仕組みの基礎		
今年度 予定	6月12日、19日(毎週水曜日) 15:30～17:00	★

昨年度実施状況

日 時	2018年6月5日、12日、19日(毎週火曜日) 15:30～17:00	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級	
講 師	チャールス・テイラー・ジャパン 代表取締役 関根 司 氏	
概 要	<p>毎年講義内容に若干の見直しを加え、「厄介で難しい」と考えられがちな共同海損をなるべく噛み砕いて解説いたします。</p> <p>GAを理解するための基礎的なポイントを押さえ、いくつかの事故例を参考にGAの知識を習得します。また、最新のYAR2016の主な改定点についても簡単に触れます。</p> <p>また、海上保険の基礎となっているMIA 1906および日本とイギリスの船舶保険マーケットの違いについても学習します。最後に、全3回を総括した小テスト(10問程)で知識の確認ができます。</p>	
内 容	1	<p>GAの基礎知識(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GAとは何か? ・GAの成立要件 ・二つの種類のGA「損害」 ・GA事故の例 GAの具体的な事故例を3つほど紹介し、どのような出費がGAに認められるのかを解説します。 ・GAとYARの関係 ・YARの歴史
	2	<p>GAの基礎知識(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GA Declarationについて ・GA Securityについて ・実際にGA事故が起こったら?各当事者の役割 事故の際に、船主、傭船者、荷主等、各立場における対応を解説します。 ・YAR 2016の改定点
	3	<p>MIA 1906、並びにイギリス船舶保険マーケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の基礎「英国海上保険法(MIA 1906)」について ・イギリス船舶保険マーケットと日本マーケットとの比較 ・まとめの小テスト

海運実務研修講座 7 「海上物品運送契約(外航)入門(連続2日間)」	
業界必須の基礎知識を身につける！	
★★	
今年度 予定	6月13日(木)、14日(金) 13:30～17:00

昨年度実施状況

日時	2018年6月14日(木)、15日(金) 13:30～17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	日本海運集会所 仲裁グループ長 青戸 照太郎	
概要	<p>貨物の海上輸送契約が結ばれた場合、当事者間の権利義務関係を規律するものは、その契約の各条項だけでなく、関連する法律や、判例で示された種々の原則にも及びますので、これらを体系的に理解しておくことが必要となります。</p> <p>本講座では、これから海事関連業界で本格的に実務に携わる方々を対象に、こうした外航の海上物品運送契約に不可欠な法的知識の基礎を、NYPEやGENCONといった標準書式を参照しつつ、イラストを用いたやさしい解説で、2日間集中して講義します。</p>	
内容	6月14日 (木)	第一部 1.海上物品運送と輸出入(FOB、CIF、L/C決済) 2.海上物品運送の契約手段(B/L、C/P) 3.運送人による船舶の手当(BBC、T/C、V/C) 4.運送契約の成立と権利義務(含COGSA)
		第二部 1.Voyage Charter の全体像 2.Laycan と Arrived ship 3.荷役(Laytime、Demurrage、FIO等) 4.運送人の権利と義務(運賃、B/L等) 5.貨物の引渡し(LOI渡し等)
	6月15日 (金)	第三部 1.Time Charter の全体像 2.本船の引渡し 3.Off-hire 4.傭船料の支払いと引揚権 5.傭船期間と返船及び最終航海の指示 6.その他(Employment、荷役責任、ICA、スピードクレーム)
		第四部 1.傭船契約と船荷証券の関係 2.船荷証券の当事者 3.各運送契約の相違と補償 4.ケース・スタディー

海運実務研修講座 8 「船荷証券の基礎(全3回)」

B/Lの基本理解、国際運送や国際取引を学ぶ

★★

今年度 予定	6月21日、28日、7月5日(毎週金曜日) 18:00～19:30
-------------------	--------------------------------------

昨年度実施状況

日時	2019年2月15日、22日、3月1日(毎週金曜日) 18:00～19:30	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	雨宮総合法律事務所 弁護士・海事補佐人 雨宮 正啓 氏	
略歴	早稲田大学卒、早稲田大学大学院法学研究科(修士課程)修了早稲田大学客員教授、大連海事大学法学院客座教授、海法研究所[早稲田大学総合研究機構]客員上級研究員、日本海運集会所海事仲裁委員会仲裁人、日本海運集会所書式制定委員会委員、国土交通省・標準運送約款等のあり方に関する検討会座長、元・法務省法制審議会幹事(商法(運送・海商関係)部会)など。	
概要	船荷証券は国際物品売買取引において使用される基本的な有価証券となります。しかし、その理解は決して容易なものとは言えません。 本講座では、船荷証券に関する基本的な知識及びその理解の前提となる国際運送や国際取引の基礎を習得します。	
内容	1	船荷証券の意義及び性質
	2	船荷証券の種類及び類似の運送証券
	3	船荷証券の約款及び運送人の責任

海運実務研修講座 9 「船舶保険 入門(全3回)」

船舶損害のリスクを補填する保険の基礎知識



今年度 予定	6月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日 時	2018年6月26日、7月3日、10日(毎週火曜日) 15:30～17:00(初回のみ終了後懇親会につき18:00まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級	
講 師	東京海上日動火災保険 コマーシャル損害部船舶グループ 課長代理 吉村 和樹 氏	
略 歴	2005年入社、入社以来一貫して損害サービス部門で保険金お支払い業務に従事。船舶保険に加え、自動車保険、火災新種保険、航空保険、海外賠償責任保険の損害サービスも経験。2015年より現職。	
概 要	本講座では、船舶保険の基礎を学ぼうとする方々を対象に、各種船舶保険の内容、保険金支払いの対象となる事故および損害、事故発生時の対応・注意点等、船舶保険について押さえておくべきポイントを講義いたします。	
内 容	1	船舶保険の基礎知識 (P&I保険を含めた船舶保険の商品説明を中心として)
	2	海難発生時の対応(1) 修繕・衝突 (保険てん補の範囲を含めて)
	3	海難発生時の対応(2) 全損・救助・共同海損 (保険てん補の範囲を含めて)

海運実務研修講座 10 「トランプオペレーターの業務(連続2日間)」	
業界入門講座！ チャーターリング、配船、運航業務のあらし	
★	
今年度 予定	6月頃

昨年度実施状況

日時	2018年5月8日(火)、9日(水) 18:00～19:30(初回終了後、懇親会につき20:30まで)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	入門・初級 新入社員、入社2～3年目ぐらいまでで基本的な内容確認をしたい方。また、今後の業務に自信を持ちたい方。	
講師	クリッパージャパン 代表取締役(元 昭和海運営業2部長) 大島 和実 氏	
略歴	1971年早稲田大学商学部卒業後、昭和海運(株)入社。 不定期船部近海課配属を皮切りに、在来船定航部門での数年間を除き、1998年までの27年間を一貫してケーブサイズ、Panamax等の大型—中型不定期船営業部門で用船・貨物契約等の業務を担当。 1995年からは不定期船第二営業部長として、ハンディーサイズも含めたフリー船バルク部門全般の営業を担当。 1992年から1995年までロンドン駐在。このほかドバイ、クアラルンプールでの駐在も経験。 1998年、昭和海運と日本郵船の合併を機に、米国Portlandに本社を持つLasco Shippingの日本代表に就任。 2003年、デンマークのClipper GroupによるLasco社の買収を機に、同グループの日本代表になり、現在に至る。	
概要	一般不定期船のマーケットは、ようやく明るい兆しが見えてきました。今後、市況変動が海運会社の業績を左右することは変わりありませんが、貿易を担う不定期船運航の仕事がなくなることはありません。 金融取引・ITなどは異なり、この仕事は、生きた人間の乗る‘船’を道具に我々の生活に欠かせない物資を運ぶ実業であるだけでなく、商売上の人間関係・長期信頼関係がいまだに大いに物を言うアナログで魅力に富んだ世界でもあります。 本講座は、講師の実経験や失敗談等を織り交ぜながら、若い世代の海運マンに‘Tramp’業務の魅力を伝え、今後の手引きとなるよう構成されています。	
内容	1	不定期船(Tramper)業務は海運マン・ウーマンの神髄 1.不定期船業務とは 2.船の種類 3.不定期船貨物 4.傭船契約(航海傭船・賃積=Voyage Charter) 5.C/B
	2	伝統的不定期船事業(一般不定期船)の復活は必須 1.Operation 2.引き合い 3.傭船契約(定期傭船=Time Charter) 4.傭船と社船 5.不定期船経営とマーケット

海運実務研修講座 11 「港湾・物流基礎(全1日)」

輸出入の業務、国際物流を支えるプロになる



今年度 予定	7月3日(水曜日) 13:30～17:00(途中休憩有)
-------------------	---------------------------------

昨年度実施状況

日時	2018年7月11日(水曜日) 13:30～17:00(途中休憩有)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	入門・初級	
講師	春山 利廣 氏 東海大学海洋学部および流通経済大学流通情報学科 非常勤講師 (元 商船三井、元 ジャパンエクスプレス 専務取締役・顧問)	
略歴	1973年早稲田大学政治経済学部経済学科卒業。商船三井入社。1984～1989年米国ロスアンゼルスに駐在。輸入貨物のロジスティクス構築に従事。1997～2000年タイ国バンコックに駐在。保税倉庫を運営。2001年タイ国 Assumption大学MBAコース修了。経営学修士。 2001～2003年米国ミシガン州駐在。保税倉庫を運営。2003年(株)ジャパンエクスプレスに移籍。取締役兼倉庫部長、2012年常務取締役、専務取締役を経て顧問。2013年退社後、コンサルタント業開設。現在東海大学海洋学部、流通経済大学流通情報学科にて非常勤講師を務める。	
著書	『ココで差がつく!貿易・輸送・通関実務』成山堂書店 『港湾倉庫マネジメント ―戦略的思考と黒字化のポイント』成山堂書店	
概要	本講座は、前半の「輸出」では、貨物が工場や倉庫から出荷されて船積されるまでを扱い、国内における貨物の移動工程を俯瞰します。 後半の「輸入」では、貨物が港に到着してから個々のエンドユーザーに渡るまでの個別対応について学習します。 「輸出」と「輸入」における海上輸送部分の前後の移動工程を把握し、各工程の業務と専門性を理解することで、国際物流の一端を担えるようになることを目的としています。	
内容	1	輸出 ・輸出貨物が工場や倉庫で完成してから船積まで、日本国内の移動工程を俯瞰する。 ・移動工程は、トラック輸送、通関、倉庫、港湾運送など当該分野のプロが連続して担当する。それぞれのプロの資格要件と業務の概要を取り上げる。
	2	輸入 ・輸入貨物が港に到着してからエンドユーザーに渡されるまでの移動工程を俯瞰する。 ・通関や港湾倉庫、国内輸送など各分野のプロがこの工程に参加する。 ・輸出と異なりエンドユーザーの要望は多様であり、プロの個別対応を取り上げる。

海運実務研修講座 12 「税務・会計基礎(全2回)」

船主側からみる海運特有の税制と事業承継

★★

今年度 予定	7月10日、17日(毎週水曜日) 15:30～17:00
-------------------	---------------------------------

昨年度実施状況

日 時	2018年7月5日、12日(毎週木曜日) 15:30～17:00	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	初・中級	
講 師	グローバルプロフェッショナルパートナーズ GPP税理士法人 公認会計士・税理士 中島 毅 氏	
略 歴	早稲田大学商学部卒業 1992年監査法人トーマツに入所後、監査業務、株式公開支援業務に従事、その後税理士法人トーマツにて国内税務全般に従事した後、2014年より現職。 船主を始めとする顧客に対する税務アドバイザリー業務、税務申告業務に従事する。 2017年早稲田大学法学研究科修士課程「国際海事問題の実務と法」にて修士課程修了。	
概 要	船主経営では、海運事業特有の契約形態や取引関係が存在し、それに伴う特有の税務上の論点や海外置籍に伴う税務関係の知識が必要になります。 本講座の前半では、海運業に関わる法人税制のポイントや企業経営上の留意点を、後半では、船主業向けの事業承継のポイント(相続税対策等)を解説いたします。	
内 容	1	船舶所有者に関する法人税制 ・裸備船契約の留意点 ・子会社間の取引(船舶譲渡、定期備船)に関する留意点 ・海外子会社に対する税制(タックスヘイブン税制) ・その他船舶所有者に特有の税制(特別償却、圧縮記帳ほか)
	2	船舶所有者に関する事業承継 ・事業の承継と関連税務 ・株式の評価方法と船舶所有者特有の論点 ・株式の承継に関する特例措置(事業承継税制) ・船舶所有者における具体的な事業承継対策

海運実務研修講座 13 「船荷証券の実務上の問題点(中級)(全3回)」	
実例を参考に学び、実務に活かす ★★★	
今年度 予定	7月12日、19日、26日(毎週金曜日) 18:00～19:30

昨年度実施状況

日時	2019年3月8日、15日、22日(毎週金曜日) 18:00～19:30	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	中級以上	
講師	雨宮総合法律事務所 弁護士・海事補佐人 雨宮 正啓 氏	
略歴	早稲田大学卒、早稲田大学大学院法学研究科(修士課程)修了早稲田大学客員教授、大連海事大学法学院客座教授、海法研究所[早稲田大学総合研究機構]客員上級研究員、日本海運集会所海事仲裁委員会仲裁人、日本海運集会所書式制定委員会委員、国土交通省・標準運送約款等のあり方に関する検討会座長、元・法務省法制審議会幹事(商法(運送・海商関係)部会)など。	
概要	本講座では、海運実務研修講座(28)「船荷証券の基礎(全3回)」を踏まえて、船荷証券約款に基づく運送人の責任及び荷主の責任、加えて、判例や法的紛争となった実例や最新の学説を交え、それらを実務に活かしていただけるよう解説します。	
内容	1	船荷証券の約款及び運送人の責任(1)
	2	船荷証券の約款及び運送人の責任(2)
	3	船荷証券の約款及び荷主の責任

海運実務研修講座 14 「貿易実務 入門(全1日)」 ※旧 貿易実務基礎(全3回)

改

仕事の基礎固め！ 貿易のしくみをきちんと理解する

★

今年度
予定 8月6日(火曜日)
9:30~17:00

2019年度 講師交代・内容改定

場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級	
講 師	中矢 一虎 氏 国際法務 代表取締役 / 司法書士 / 行政書士 / 大阪市立大学商学部 講師	
略 歴	神戸大学法学部卒業後、住友商事株式会社に入社。パリやロンドン駐在時には、主に化学品の貿易取引に携わる。今日まで、欧米・中国・アジア・アフリカ・中近東など世界80カ国以上を国際取引にて歴訪した経験を持つ。現在、中矢一虎法務事務所の代表を務め、国際契約書の相談や作成を行う司法書士及び行政書士であり、日本国内の企業契約法務や個人の相続・遺言・信託など幅広い法律業務を多数こなしている。大阪市立大学商学部講師、各種団体が主催する講演会・研修会の講師としても幅広く活躍している。	
著 書	『貿易実務の基本と三国間貿易完全解説』(中央経済社)他多数	
内 容	1	貿易実務全体の入門理解 1.貿易の流れを歴史から検証する 2.世界と日本 3.国際取引は3つの要素がカギとなる 4.貿易実務はモノ・カネ・カミ 5.貿易条件とインコタームズ 【インコタームズ2010概要】 ①貿易条件 (1)費用の範囲 (2)危険の範囲 (3)世界の貿易条件解釈基準 ②インコタームズ (1)インコタームズの誕生 (2)インコタームズ2010 (3)インコタームズ2010の主要三規則 (4)インコタームズ2010の実務上の注意 6.貿易と保険は切り離せない 7.外国為替と支払条件を理解する (参考1)新しい貿易支払条件(TSU:電子貿易決済サービスとBPO:銀行支払確約機能) (参考2)新しい国際送金業務とブロックチェーン等
	2	輸出コスト計算(基本) 1.プレイクダウン方式 2.コストプラス方式 3.具体例の検討 4.申込(オファー:offer) 書面作成
	3	入門演習① 売契約書の作成

内 容	4	船積書類 1.船積書類 2.インボイス 3.梱包明細書(パッキングリストを作成する) 4.原産地証明書を作成する 5.貨物海上保険証券を入手する 6.船荷証券を入手する 7.<発展>航空運送状(Air Waybill)と航空運送 8.<発展>船荷証券(B/L) 正本全部呈示以外の方法による輸入貨物引取り
	5	入門演習② 船積書類の作成 1.インボイス 2.パッキングリスト
	6	入門演習③ 貿易実務(入門・基礎)の理解問題
	7	輸出業務と輸入業務の流れ 1.輸出の大きな流れ 2.輸入の大きな流れ <参考>特恵関税制度

海運実務研修講座 15 「オフショアエネルギー保険の基礎(全1日)」		★★
オフショアエネルギー保険の概要を学び、実践力を養う		
今年度 予定	9月頃	

昨年度実施状況

日時	9月7日(金曜日) 13:30～17:00(講義終了後、18:00頃まで懇親会)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	1	三井住友海上火災保険 船舶営業部第四課 課長代理 高橋 英臣 氏
	2	三井住友海上火災保険 海損部船舶グループ 課長 成田 亮 氏
概要	<p>オフショアエネルギー保険は、洋上での石油・ガスの開発に伴うリスクをカバーする保険です。本講座では、オフショアエネルギー保険の基礎および保険クレーム対応について解説します。</p> <p>前半は、洋上石油/ガス生産プロジェクトおよびFPSO(浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備)に関する物保険、賠償責任保険、費用保険、利益保険について、保険の基礎と実務上のポイントを解説します。後半は、オフショアエネルギー保険クレームの特徴、過去の大口保険クレームの概要、保険クレームにおける留意点などを解説します。</p>	
内容	1	オフショアエネルギー保険についての解説 ・オフショアエネルギー保険の特徴 ・オフショアエネルギー保険の手配 ・財物保険(Property)、暴噴制御費用保険(Cost of Control) 賠償責任保険(Liability)、利益保険(Business Interruption/Loss of Earnings)
	2	オフショアエネルギー保険クレームについての解説 ・オフショアエネルギー保険クレームの特徴 ・過去の大口保険クレーム事例 ・オフショアエネルギー保険クレームの精算実務

海運実務研修講座 16 「船舶管理実務(全2日)」

船舶管理業務の概要を体系的に学ぶ

★★

今年度 予定	9月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日時	2018年9月13日、20日(毎週木曜日) 13:30～17:00(途中休憩有)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級	
講師	ワールドマリン 取締役・常務執行役員・船舶管理グループ長 杉本 和重 氏	
略歴	1988年ワールドマリン入社。航海士及び船長として海上勤務の後、海務監督として船舶管理業務に従事。同社海務グループ長、品質安全管理室長を経て、2010年より現職。	
概要	船舶管理は、関連規則・条約の規定に基づき、本船の堪航性を確保しさらに本船の資産価値を維持する船主業務の大きな柱であり、その実務は船舶の安全運航・保守管理・船員の教育訓練、事故防止・対応などのリスクマネジメントと多岐にわたっています。 本講座では、船舶管理業務を熟知した講師に、具体例を交えながら体系的に解説していただきます。	
内容	1	船舶管理概要 船舶管理契約 / 船舶管理費用 / ISM Codeと安全管理
	2	乗組員管理業務 乗組員配乗管理・教育 / MLC2006条約の概要
	3	工務関連業務 保船・入渠作業実務 / 関連条約・規則と検査
	4	海務関連業務と安全管理 傭船契約・運航管理 / Inspection関連業務 / 安全管理実務

海運実務研修講座 17 「“実務家の為の”具体的事例で学ぶクレーム対応」 改	
事例をもとに海事法と契約書を理解し、クレーム対応力を高める ★★	
今年度 予定	9月頃 講師：小川 優 氏（日本船主責任相互保険組合 顧問(元 商船三井)）

昨年度実施状況

日時	2018年9月27日、10月4日(毎週木曜日) 13:30～17:00	2019年度 講師交代・内容改定
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員：20,000円(税別) JSE非会員：40,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先／先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	法務系の部署の方には、初・中級 営業・オペレーターの方には、中級以上 実務の中で出会う様々な紛争に際し、少しでも適切な初動が出来るよう海事契約の基礎を学びたいと思っ ている方(船主・オペレーター・荷主の運航担当者若しくは現場担当者など) 実務者、未経験者の場合は、用語の正確な定義を不知でも紛争の論点を整理したいと感じている方。	
講師	元川崎汽船 法務グループ長 早坂 剛 氏	
概要	本講座では、法務を直接担当されていない方々も対象に、日頃の実務の中で遭遇する可能性のある事 態に際し、少しでも適切に反応できるように、極力具体的事例に沿って解説します。 また、特にしばしば誤解されている事項をいくつか取り上げ、その解説をとおして、海事法の基礎的考 え方とその構造を学びます。契約の解釈に必須な限度で英国法独特の本質的なコンセプトにも少し触れま すが、極力法律の専門用語は避けるように解説します。	
内容	良く起こる具体的事例を幾つか取り上げて、それを巡る基本事項や考え方を整理し、海事法理解の躰きの 石を少しでも取り除きたいと思えます。	
	1	船荷証券を巡る紛争： 例) - “甲板積した羊2000頭のうち数10頭が運送中に流失した！ B/Lには、運送人を免責する旨の規定があるがそんな勝手な規定は無効だ！” “そもそも有効か無効かは、何を基準に判断すればいいの？” - “Shipperを信用して運賃未収のままprepaid B/Lを発行したら、Shipperが倒産 しちゃった！どうしよう！？” - “カーゴ・クレームが来たんだけど、船主さん、対応お願いします！” “だって、定期傭船者さん、貴社策定の書式で発行した船荷証券なんだから、運送人は 定期傭船者さんに決まっているでしょう！船主は一切貨物損害の責任を負わないよ！” - “そもそも船荷証券上の運送契約の運送人は誰なの？” “仮に船主が船荷証券の運送人でないとしても、船主は必ずしも貨物損害の責任を 免れるとは言えないよ！かえって責任がより重くなることもあるかも！” “それに、仮に船荷証券上の責任は無いとして、定期傭船契約上の責任はどうなる の？” - “LOIを貰ったぞ！これで総てのリスクがヘッジできるぞー！” “ホントに大丈夫かい？”
	2	定期傭船契約を巡る紛争： 例) - “傭船期間中に本船が不具合な時間は、全部Off-hireに決まってるだろ！？” - “理由はどうであれ、本船の当初のスケジュールに遅れが出たらそのロスタイムは、 Off-hireするのが当然だ！？” - “不当なOff-hireやhire未払に対して船主が持つ対抗手段は？” - “Paramount Clauseは、船荷証券の話だから傭船契約の内容そのものとは関係 ない！？” - “私は船長だ。定期傭船者が用意した船荷証券の内容は、傭船約上の船主の義務と 矛盾し、それを加重しているからその船荷証券の発行を拒否する！” - “当方は定期傭船者だ。船主が運送人となる船荷証券が発行されたのだから、 船荷証券上の責任は最後まで船主が負うべきなので、貨物クレームはそちらで 処理してください。貨物クレームは定期傭船者の関知するところではない！” - BunkerのQualityを巡る諸問題
★以下の書式を資料として使用します。 国際海上物品運送法・NYPE 1946		

海運実務研修講座 18 「海技の知識(全3回)」

船長さんに聞く、船舶オペレーション業務における運航のポイント



今年度 予定	10月頃
-------------------	------

昨年度実施状況

日時	2018年10月3日、10日、17日(毎週水曜日) 15:30～17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級 オペレーター、実務経験1～3年向きまたは、海上職で陸上勤務が長い方	
講師	一般社団法人 日本船長協会 常務理事 船長 大類 健三郎 氏 一般社団法人 日本船長協会 参与 船長 長田 泰英 氏 一般社団法人 日本船長協会 常務理事 船長 中田 治 氏	
概要	<p>海運実務研修講座(18)「海技の知識(全3回)」を下記のとおり開催いたします。 船舶の運航・操船するうえで知っておきたい気象・海象と輸送中のカーゴへの影響とダメージ防止対策等、海上輸送における基礎的な知識を体系的に分かりやすく解説いたします。 また、講師には、海上経験豊富な3名の船長さんを迎え、日本船長協会で作成しているプレゼン資料や映像を用いながらお話しいたします。 なお、本講座は、船のオペレーション担当初級者を対象としていますが、海技資格保持者でも長期に陸上勤務されている方、また各船長さんの貴重な経験談を聞いてみたいという方にもお勧めです。</p>	
内容	1	船舶輸送中に貨物が受ける影響とその対応 ※初級・中級オペレーターを対象に、海上輸送中の貨物に対する船上におけるダメージ対策を解説 1.貨物に影響を及ぼす要素(外力・熱・湿気) 2.貨物への影響を最小限に防ぐために 3.各専用船における貨物へのダメージ対策 4.その他 乗船中に体験した実例の紹介
	2	初級オペレーターのための気象・海象の基礎知識 1.知っておくべき基本的な気象知識 2.ウェザールーティングの航路選定について 3.荒天域の避航・避泊について 4.ほか
	3	初級・中級のオペレーターのための巨大船及び特殊船型船の操船の知識 1.巨大船と特殊船型船の定義 2.巨大船の惰力と特殊船型船の風圧抵抗 3.制限水域での操船 4.港内操船(タグボートの利用) 5.錨泊、係留 6.荒天航海(破損、転覆を避けるための操船)
その他	※(一社)日本船長協会が発売している教育用ビデオをもとに構成しています。	

海運実務研修講座 19 「ドリルシップ・オフショア支援船・FPSOを とりまくリスクと契約上のリスク分担(全2日)」

海洋フロンティア事業のリスクを考える

★★★

今年度 予定	10月頃
-------------------	------

昨年度実施状況

日時	2018年10月11日、18日(毎週木曜日) 13:30~17:00(途中休憩有)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	中級以上 実務経験3~5年以上	
講師	星 誠 氏	
略歴	1983年 保険会社入社。米国でMBA取得後、7年に亘りサハリン2プロジェクトのリスクマネージャーを務める。業務の一環として、コントラクト担当やプロジェクトファイナンス担当への指導、アドバイスを実施。2003年から2009年まで保険会社で船舶・海洋エネルギー開発保険の保険金支払い業務の責任者を務める。その後、コンサルタントとして深海用ドリルシップ向けのプロジェクトファイナンスへの保険アドバイザーも経験。英米の海洋開発・海事関連の判例研究多数。	
概要	近年本邦の海運業界から関心が高まる海洋資源開発関連船舶の事業リスクを考えるうえで重要な契約上のリスク分担を検討します。 1日目に、石油開発に伴う主要リスクおよび一般的な商船運航リスクとの違いを検討したうえで、プロジェクト関係者内での契約によるリスク分担の考え方とその背景を論じていきます。2日目は、主要な論点について、実例(公開判例)に基づくケーススタディにより理解を深めることをめざします。 契約上のリスク分担のサンプルとしては主に昨年6月に発表されたBIMCOのSUPPLYTIME 2017を使用します。SUPPLYTIME 2005 との主要変更点も併せて検討する予定です。	
内容	1日目 10月11日 (木)	<ol style="list-style-type: none"> 1.海洋エネルギー開発関連のリスクと通常船舶リスクの文脈の違い <ul style="list-style-type: none"> ・主要事故事例から考える海洋開発のリスク ・通常の船舶運航リスクとの文脈の違い 2.海洋エネルギー開発の文脈を踏まえたリスク分担の原則 <ul style="list-style-type: none"> ・リスク分担の実務(主要標準契約) ・メキシコ湾暴噴事故以降の傾向 ・リスク分担の背景哲学 ・契約上のリスク分担の限界 ・リスク分担以外の戦略的リスクヘッジの重要性 3.SUPPLYTIME2017 改定点の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・例外削減によるKnock for Knockの強化 ・Knock for Knock適用範囲の落とし穴の削減 ・重大な契約違反でもKnock for Knock? ・Maintenance Allowanceなどその他の変更点
	2日目 10月18日 (木)	<ol style="list-style-type: none"> 1.ケーススタディ(以下は検討予定のケース) Knock for Knock補償請求の実例と社会的意義:Piper-A事故(英貴族院判例) 「Company Group」の定義:Njord-B事故(ノルウェー控訴裁) 巨額汚濁責任の分担:BP v Transocean(米連邦控訴裁) Additional Assuredの範囲:BP v Transocean(米連邦控訴裁) 間接損害の自損自弁:Transocean v Providence Resources(英控訴院) 2.巨額化する罰金と刑事罰の影響を考える <ul style="list-style-type: none"> ・事業リスクを考えるうえで、無視できないリスクになりつつある罰金と刑事罰の実例と影響を検討します。 3.その他トピックスの検討

海運実務研修講座 20「外航貨物海上保険 入門(全3回)」

荷主・運送人双方の理解のために



今年度 予定	10月頃
-----------	------

昨年度実施状況

日 時	2018年10月12日、19日、26日(毎週金曜日) 15:30～17:00 (初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級 荷主、海運会社の営業・運航担当者など	
講 師	1、2	三井住友海上火災保険 海上航空保険部 貨物保険チーム 課長 小森 英孝 氏
	3	三井住友海上火災保険 海損部 貨物第二グループ長 横井 力 氏
概 要	<p>船舶の安全管理技術の発達により海難の発生件数は減少していると言われてはいますが、自然災害や人為に起因する海難とそれに伴う貨物損害は後を絶たず、貿易取引の当事者は、貨物保険を適切に手配してリスクを軽減させる必要があります。</p> <p>本講座では、海上輸送中のリスクに対してどのような条件で保険を付保すれば、どのような損害が補償されるのか、実例に基づき基礎から解説いたします。また、貨物損害が発生した場合に、荷主としての対応と手続きも詳述いたします。</p> <p>なお、運送人の視点から損害が貨物保険でカバーされない場合や、貨物保険者から求償された場合の対応(運送クレームへの対応や責任保険によるカバー等)についても触れます。</p>	
内 容	1	外航貨物海上保険の基礎(1) 保険の成り立ち 外航貨物海上保険の役割 大規模損害の実例 海上運送人の責任 共同海損 売買契約と外航貨物海上保険の手配者
	2	外航貨物海上保険の基礎(2) 補償内容 保険期間 主な免責事由 費用損害と特約 保険料率 申込方法
	3	貨物損害発生時の対応 保険金のご請求手続き(流れとポイント) ケーススタディ 海外クレーム体制 共同海損(General Average)とは?

海運実務研修講座 21 「不定期船実務の基礎知識(全9回)」		★★
不定期船ビジネスを海陸双方向から学ぶ		
今年度 予定	10月頃	

昨年度実施状況

日時	2018年10月22日～12月17日 計9回 1～6 10月22日(月)、29日(月)、11月5日(月)、12日(月)、14日(水)、26日(月) ※第5回の日程が変更になりました。 15:30～17:00(90分/回) (第6回の講座終了後、懇親会につき18:00まで) 7～9 12月3日、10日、17日(毎週月曜日) ※日程は変更になる場合があります。 18:00～20:00(120分/回)	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:50,000円(税別) JSE非会員:100,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級 不定期船に携わる営業・オペレーター、断片的な知識を整理したい方。	
講師	1～6	せとうちクルーズ 代表取締役社長(元 商船三井、元 神原汽船) 城 暁男 氏 1972年大阪商船三井船舶入社。不定期船部門を歩み部長を経て、Mitsui OSK Bulk Shipping (Europe) Ltd. Managing Directorに。帰国後は、神原汽船の取締役、常務取締役、社長、会長を歴任し、2017年1月からせとうちクルーズ代表取締役社長を務めている。
	7～9	乾汽船 船舶管理部副部長 海務監督 船長 小坂 吉彦 氏 2001年乾汽船入社。海上勤務後、営業・運航支援の海技員として陸上勤務を行う。その後、船舶管理部を経て海上勤務へ戻り、2013年船長として乗船。2014年11月より海務監督として海務・海技・船員の業務を務める。
概要	<p>本講座は、陸上業務編6回、海上業務編3回で構成されています。陸上業務編は、不定期船営業の経験豊かな船社経営者に実務のポイントをお話をさせていただきます。</p> <p>その後、海上業務編は船社の現役船長に、船とその運航に関する技術的な知識・乗組員の話・船用機関基礎・海事法規基礎・貨物と積み付けについて、船の図面、写真、貨物サンプルを用い、船上実務や体験に基づき、バルクキャリアーを例に分かりやすく説明していただきます。</p> <p>不定期船に携わる方、また断片的な知識はあるものの、船舶建造から処分までの全体像について理解を深めたい方などを対象にしています。</p> <p>なお、第6回の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しています。ぜひご参加ください。</p>	

内 容	1	海運の歴史 1) 世界の海運の歴史 2) わが国の近代海運の歴史
	2	海運経営 2018年3月期海運会社の決算状況
	3	船舶保有の基本的な考え方 1) Ownerと Owner-Operator 2) 海運業における利益追求の考え方 3) 船種・船型検討・・・荷主・傭船者の動向把握 4) 船価(新造か中古船か)検討 5) 本船コスト試算・・・船価、船員費、金利 6) Operatorに傭船に出す場合の注意点 7) 傭船契約書(C/P)
	4	海運プール
	5	船舶処分の基本的考え方 1) 本船のCondition 2) 中古船市場 (Ship Sales & Purchase Market) 3) 対策
	6	海運営業一引合と運航、採算と実績 1) 引合 (Chartering) の基本的な考え方 A) 手持ち戦力の把握 B) 市況の判断 C) 交渉相手の選択と環境判断 D) Offerの準備・心構え (Estimation作成) E) 交渉 F) 成約・契約書 (Charter Party) 作成 2) 運航 (Operation) の基本的な考え方 A) 動静把握 B) 積荷・積高・Stowage C) 積揚港 D) 航路・補油・気象海象 E) 船長・代理店への指図 F) 入出金 G) Laytime Calculation H) 海難・戦争・訴訟対応 I) Arbitration (仲裁) J) EstimationとActual Resultとの比較
	7~9	<ul style="list-style-type: none"> ・船舶概説(船体構造・載貨重量・ドラフトサーベイ・堪航性・堪貨性など) <ul style="list-style-type: none"> — 船体構造を切り口にして、貨物船全般に船舶の普遍的な知識を解説します。 この話が載貨・貨物・積み付け・堪航性・気象影響の話につながります。 ・貨物と積み付け(港湾と荷役にも言及) ・乗組員の話 <ul style="list-style-type: none"> — 船員の職務・船内生活など ・海事法規(基礎的なもの 及び 実務で使用するもの) <ul style="list-style-type: none"> — 国際条約(SOLASなど)、ISM codeとSMSなど ・気象・海象の影響 <ul style="list-style-type: none"> — 船体・貨物に与える影響(堪航性・堪貨性との関連)および運航に与える影響 (ウェザールーティングとの関連を含む) ・船用機関の基礎 <p>※Bulk carrierを例とし、船上実務や体験に基づいた話を中心に行います。</p>
参考資料	乾汽船発行「不定期船実務の基礎知識」(非売品) 日本海運集会所発行「KAIUN(海運)」6月号 日本海事広報協会発行「SHIPPING NOW 2018-2019」 別途、講座資料等を配布。	

海運実務研修講座 22 「ドライバルク航海傭船契約(全3回)」 ※旧 航海傭船契約におけるLaytimeの基礎知識(ドライバルク中心)(全3回) Laytime の基礎知識、考え方を整理する		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">改</div> ★★
今年度 予定	11月頃	

昨年度実施状況

日時	2018年10月16日、23日、30日(毎週火曜日) 15:30~17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級 Laytimeに関する基本的な知識を整理したい方。 ※ドライバルクを想定していますが、特筆すべき注意点がある場合はAsbatankvoyなどの契約書についても言及します。	
講師	日本海運集会所 仲裁グループ 松下 千紗	
概要	<p>航海傭船契約上、最も頻繁に起こるトラブルの一つは Laytime に関するものであり、当事者間で納得の行く形でトラブルを処理することは傭船実務を円滑に進める上で重要です。</p> <p>そこで、本講座では、ドライバルク貨物運送用の航海傭船契約標準書式を念頭に置き、航海傭船契約における Laytime の位置付け、典型的なトラブル、英国の裁判所が打ち立ててきた諸原則を、傭船実務経験の浅い方向けに解説します。(タンカー用航海傭船契約の講座は、別途、来年1月に開講いたします。)</p>	
	1	1. 航海傭船契約とLaytimeの概要 ・航海傭船契約とはどのような契約なのか (船主及び傭船者の義務、堪航性、Laycan、荷役責任など) ・Laytimeとは何か 2. Laytimeの開始 ・Laytime開始の要件 要件(1): 約定の場所に到着すること (Port CharterとBerth Charter、WIBONとWIPONなど) 要件(2): 荷役準備が完了していること 要件(3): NORがtenderされていること (NORはいつ出せるのか、Laycan開始前にNORを出したらどうなるのか)
	2	3. Laytimeのカウント方法 ・「WWD24CH」や「WWDSEX」などの表記について ・WeatherやHolidayの考え方
	3	4. Laytimeの終了 ・Laytime終了のタイミング ・Despatch、Demurrage及びDetentionについて 5. Laytimeから除外する時間 ・一般原則:(1)除外規定がある(2)Owner's faultである ・Demurrageの場合 ・「Force Majeure」について ・Shifting timeの考え方 ・荷役中の離岸 ・Berth待ちの間の船主側の行為

海運実務研修講座 23 「新人社員研修(秋)(連続2日間)」

船で世界の荷物を運ぶ 海運の基礎を学ぶ



今年度予定	11月頃
--------------	------

昨年度実施状況

日時	11月20日(火)、21日(水) 13:30～17:00(初日は講義終了後18:30まで懇親会)		
場所	日本海運集会所 会議室		
受講料	JSE会員:25,000円(税別) JSE非会員:50,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。		
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。		
レベル対象	入門・初級 新人社員および新人、中途入社社員		
概要	<p>業界を熟知する3名の実務家に講師を依頼し、二日間にわたり新人社員・中途入社の方々を対象に、下記のとおり海運実務研修講座「新人社員研修(秋)(連続2日間)」を開催いたします。</p> <p>初日は、疑似航海のストーリーや海運の歴史を絡めながら、商船運航のしくみを学びます。二日目は、今日の海事産業の全体像を把握し、海運につきもののリスクとこれを回避するための保険について学びます。</p> <p>本講座は、海運業の経済上の役割の大きさやその仕事の特殊性を理解し、これから携わる業務の礎としていただくことを目的としています。</p> <p>また、一日目の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。</p>		
内容	11月20日 (火)	<p>第一部 13:30～17:00 (途中休憩有) 『商船の運航・基礎編』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上貨物輸送の現状(日本海運と便宜置籍船、船員リソース) ・船の諸元(長さ、幅、深さ、喫水、トン数、速度、操縦性能) ・航海実務(入出港、大洋航海、航海計画、荷役、航海計器、当直体制、パナマ運河、スエズ運河) ・船舶管理 ・安全運航管理(海難事故、海賊対策、ISMコード) ・商船の環境対策(燃費・CO2排出) ・その他、船の現状(船内生活、通信、健康管理) <p>講師：日本海洋科学 相談役 関根 博 氏</p> <p>第二部 『懇親会』 17:00～18:30 ・異業種の方とお話しできる場でもあります。積極的にご参加ください。</p>	
	11月21日 (水)	<p>第一部 13:30～15:00 『海運ビジネスの基礎』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際貿易と海運 <ul style="list-style-type: none"> ・輸送品目と海上荷動き動向 ・船の種類と船腹供給動向 2. 海運ビジネスの仕組み <ul style="list-style-type: none"> ・船主と傭船者 ・傭船契約と船荷証券 ・海運業の費用構造と採算 ・海運と海事クラスター ・海運市況 3. 海運を取り巻く現状 <ul style="list-style-type: none"> ・環境規制 ・デジタルトランスフォーメーション <p>講師：商船三井 ドライバルク営業統括部 情報・管理チームリーダー 岩佐 竜至 氏</p> <p>休憩 15:00～15:30</p> <p>第二部 15:30～17:00 『船舶保険/P&I保険の概要』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海上保険の成り立ち ・海上保険の全体像 ・船舶保険の種類とその概要 ・P & I 保険の概要 <p>講師：損害保険ジャパン日本興亜 海上保険室船舶保険グループ グループリーダー 宮本 光洋 氏</p>	

海運実務研修講座 24 「P&I保険の基礎(全4回)」

航海の安心と安全を担保する保険講座



今年度 予定	11月頃
-----------	------

昨年度実施状況

日 時	2018年11月2日、9日、16日、30日(毎週金曜日) ※11月23日は休講 15:30～17:00(初回終了後、18:00まで懇親会)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級	
講 師	日本船主責任相互保険組合(Japan P&I) 損害調査第1部 第3チーム 高嶋 俊治 氏	
概 要	<p>P&I保険とはProtection & Indemnity保険の略称で、船舶の所有者等が船舶の運航によって発生した事故等で第三者に対して負う責損害賠償責任をてん補する保険です。</p> <p>本講座では、P&I保険の総論の後、船員の傷病、財物損害、油濁損害、貨物損害等、広範なP&I保険のてん補についてわかりやすく解説します。</p> <p>初日の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しております。ぜひご参加ください。</p>	
内 容	1	I. P&I保険の概要 II. 船員クレーム 保険契約、てん補の範囲、クレームの傾向など
	2	I. 財物損害 II. 船骸撤去 III. SCOPIC報酬 船主責任制限制度、SCOPIC条項など
	3	油濁事故 油濁補償の法制度とその歴史、事故対応 など
	4	貨物損害 運送人の責任、国際条約の比較 (ハーグルール/ヘーグヴィスビールール/ロッテルダムルール)など

海運実務研修講座 25 「入門 会計と海運業(全3回)」

初めて学ぶ、海運特有の会計の基礎



今年度 予定	11月頃
-----------	------

昨年度実施状況

日 時	2018年11月8日、15日、22日(毎週木曜日) 15:30～17:00(初回終了後、懇親会につき18:00まで)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代、懇親会費含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級 海運業における会計の基礎を身につけたい方。(新人、1～2年程度向き) ※業務に携わったことのない方向け。経理部の方には易しい内容です。	
講 師	1	公認会計士 須藤 佳典 氏
	略 歴	1999年公認会計士二次試験合格後、大手監査法人を経て、新日本監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)入所し現在に至る。 海運業/物流業クライアントをメインとし、製造業等の監査やアドバイザー業務等にも携わる。 2009年より産業セクター別ナレッジおよびマーケティング活動を担当。法人内外のセミナー・研修講師を担当するほか、新日本有限責任監査法人編著の『業種別会計シリーズ 海運業』、『業種別会計シリーズ 自動車産業』(第一法規)『業種別会計実務ガイドブック』(税務研究会)などに執筆者・編集者として関与。
	2、3	公認会計士 山中 武 氏
	略 歴	2007年公認会計士二次試験合格後、新日本監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)に入所し現在に至る。 海運業クライアントをメインとし、製造業等の監査業務に携わる。
概 要	<p>本講座では、一般的な会計の基本原則をおさらいしたうえで、海運特有の実務がどう会計処理されるかにつき図表等を用いてわかりやすく解説します。</p> <p>海運業では船舶管理業の発展、経理のシステム化等により、あるいは船舶金融の多様化等により海運会計の知識を必要とする分野や業務は拡大しています。</p> <p>海運や関連企業、金融機関でこれから海運会計に直接携わるフレッシュマン、あるいは海運会計に関心のある方を対象に、入門編として基礎となる知識をお伝えします。</p> <p>また、初日の講座終了後、皆様の交流の場として懇親会をご用意しています。ぜひご参加ください。</p>	
内 容	1	会計と海運業ビジネスの基礎的理解、会計における海運業の特徴、海運業収益
	2	船舶にかかる論点(仕組船会社、償却、修繕)
	3	船舶にかかる論点(減損、税務)、代理店との取引(運航費・港費)、燃料費・貯蔵燃料、借船料
参考書籍	新日本有限責任監査法人編 http://www.shinnihon.or.jp/index.html 『業種別会計シリーズ 海運業』(第一法規) http://www.daiichihoki.co.jp/store/products/detail/100997.html	

海運実務研修講座 26 「内航海運概論(全1日)」

日本の産業と国民生活を支える輸送システム



今年度 予定	1月頃
-----------	-----

昨年度実施状況

日 時	2019年1月25日(金曜日) 13:30~16:45(途中休憩有)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	入門・初級	
講 師	流通科学大学 商学部 教授 森 隆行 氏	
略 歴	1975年大阪市立大学商学部卒業、大阪商船三井船舶(現 商船三井)入社。1990年大阪支店輸出部輸出2課長。1992年広報室広報課長。1994年営業調査室課長。1996年AMT freight GmbH(出向)社長。2001年丸和運輸機関(出向)海外事業本部長。2004年商船三井営業調査室主任研究員。2006年商船三井退職、流通科学大学商学部教授。	
著 書	『新訂・外航海運概論』(成山堂書店) 『物流の視点からみたASEAN市場 東南アジアの経済発展と物流』(カナリアコミュニケーションズ) 『神戸港昭和の記憶 仕事×ひと×街』(のじぎく文庫) 共著『内航海運』(晃洋書房) 『コールドチェーン』(晃洋書房) 『神戸客船ものがたり』(神戸新聞総合出版センター) ほか	
概 要	<p>内航海運は、国内物流の約4割を担い、鉄鋼、石油、セメントなど産業基礎資材の約8割の輸送を担っています。</p> <p>災害復興、東京五輪開催等、当面の日本の課題に取り組む上でも、また、その後日本経済が一定規模を維持していく上でも内航海運は、重要な未来のある産業です。</p> <p>本講座では、外航海運との比較により内航海運の特徴を認識した上で、克服すべき問題点を洗い出し、より競争力のある、魅力のある内航海運業となるための方策を検討いたします。</p> <p>前半は、内航海運の概要や重要性を学び、後半は、内航海運の抱える課題とその取り組みについて解説いたします。内航業界の次世代を担う若手社員や内航との関わりの強い物流業界の新人の方にお勧めです。</p>	
内 容	前半	<p>内航海運の現状と役割</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.内航船の役割 2.内航海運業界の現状 3.内航海運と外航海運の違い 4.内航海運の市場構造 5.船舶管理(オーナー、オペレーター、船舶管理会社)
	後半	<p>内航海運の抱える課題と課題解消への取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 6.内航海運の課題と取り組み 7.内航海運の新たな取り組み 8.まとめ

海運実務研修講座 27 「造船契約の諸問題に対する実務対応(全1日)」

船舶建造・取引のトラブル対応のポイントを法的に学ぶ

★★★

今年度 予定	1月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日時	2018年4月19日(木曜日) 13:30～17:00(途中休憩有)
場所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む。
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対象	中級以上 入社3～5年程度、船舶建造や契約実務に携わる方。
講師	瀬野 克久 氏 一橋パートナーズ法律事務所 弁護士
略歴	慶應義塾大学法学部卒業 1984年 弁護士登録 1984-1990年 松尾綜合法律事務所 1990-2010年 一橋綜合法律事務所 2010年 一橋パートナーズ法律事務所 2012年 小町谷奨学金(日本海法学会賞)受賞 2013年 一般財団法人山縣記念財団 山縣勝見賞著作賞受賞 早稲田大学海法研究所 招聘研究員、日本海法学会 会員、日本海運集会所 海事仲裁委員会海事仲裁人
著書	『船舶融資取引の実務(全訂版)』 『船舶建造取引の実務』 『船舶売買取引の実務』
概要	<p>船の建造に関する国際取引において、本船引き取り拒否や相手方の契約違反等に適切に対応するために、造船契約の関連条項やそれを解釈するために必要となる法律の知識を学習します。</p> <p>本講座では、国内外で発生した造船契約案件を多く手がけている法律家が、建造契約上の当事者の義務を概観した上で、日本法・英国法の場合に分け、建造船舶引き取り拒否、買主・建造者それぞれの立場からの契約解除、損害賠償請求について解説いたします。</p> <p>また、よく問題になる建造船の瑕疵担保や仕様変更にも触れます。取引実務に携わる中堅の方々にお薦めです。</p>
内容	<p>【A】Builder/Buyerの主たる義務</p> <p>【B】船舶の引取拒絶について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 引渡し 2. 建造船舶の引取受諾あるいは引取拒絶 3. 建造船舶の引取拒絶について-英国法の観点 4. 建造船舶の引取拒絶について-日本法の観点 <p>【C】建造契約終了事由</p> <p>【C1】契約に明記されている条項(Express terms)[Buyer]</p> <p>【C2】契約に明記されている条項[Builder]</p> <p>【C3】契約に明記されている条項(Express terms)以外の事由による契約解除</p> <p style="margin-left: 20px;">C3-1 日本法</p> <p style="margin-left: 20px;">C3-2 英国法</p>

内 容	<p>【D】Buyerの観点(Builder不履行の場合等の権利主張方法) Buyerの損害賠償請求権(Builderによる債務不履行) 1.Shipbuilding Contractに関する損害賠償について -英国法 2.Shipbuilding Contractに関する損害賠償について -日本法 その他の権利行使事例 Builderに対する倒産手続が開始された場合の法律関係</p>
	<p>【E】Builderの観点(Buyer不履行の場合等の権利主張方法) Builderの損害賠償請求権(Buyerによる債務不履行) 1.Shipbuilding Contractに関する損害賠償について -英国法 2.Shipbuilding Contractに関する損害賠償について -日本法 既存の契約の解除ないし変更、既存の契約の履行を確保する手段 Buyerに対する倒産手続が開始された場合の法律関係</p>
	<p>【F】Warrantyについて</p>
	<p>【G】Modificationに対するBuilderの実務対応</p>

海運実務研修講座 28 「タンカー航海傭船契約(全3回)」

ASBATANKVOYの実務と留意点を学び応用力をつける



今年度 予定	2月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日時	2019年3月6日、13日、20日(毎週水曜日) 15:00~17:00(120分/回)
場所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代含む。
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対象	初・中級
講師	元福岡大学教授/早稲田大学 海法研究所招聘研究員 榎本 啓一郎 氏
略歴	イギリス、インドでの生活経験とアメリカでの留学経験を持つ。1971年成城大学経済学部卒業。同年、三井物産に入社、有機化学品部にてリキッド・バルク・ケミカルの国際商取引等を担当。 台北、ブリュッセルでの海外勤務を経て、バンコックにてタイ国三井物産の副社長を務め、2002年から2013年3月まで福岡大学商学部教授として国際貿易に関わる教育と傭船契約の研究に従事。 現在、早稲田大学海法研究所招聘研究員として研究を継続中。国際商取引学会、日本貿易学会、日本海法学会、異文化経営学会の会員。 2012年 山縣記念財団「山縣勝見賞」「論文賞」受賞
概要	本講座は、タンカーの運航や営業に携わっている実務担当者や傭船者向けの基礎編です。リキッド・バルクカーゴ(原油、石油製品、ケミカル等)の航海傭船契約に広く利用されているASBATANKVOY標準書式を取り上げ、契約履行のルールの基礎を講師の体験を交えながら実践的な解説をします。 個別条件の記載要件とその意義をはじめ、一般条件を巡る船主と傭船者の相反するリスクの負担等について、分かり易く具体的に言及します。 更にSHELLVOY 6, ExxonMobil VOY 2012, BP VOY 5等の主要な条件とも比較することによりASBATANKVOYの特徴を明らかにするとともに、ASBATANKVOYの運用に関わる留意点を浮き彫りにして行きますので、理解を一層深め、応用力を向上させることが期待できます。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ASBATANKVOYの構成と個別条件 ・航海傭船契約における責任の分担 ・船主の義務 ・傭船者の義務 ・遅延と損害賠償金 ・「着船」と碇泊期間の始動 ・荷役準備完了通知の効果 ・指定港とバースへのアクセス ・荷役と碇泊期間 ・慣習的早荷役 ・まとめ

海運実務研修講座 29 「船舶保険実務(中級)(全2回)」

実践的な対応力を強化する

★★

今年度予定	2月頃
--------------	-----

昨年度実施状況

日時	2019年2月14日、21日(毎週木曜日) 15:30～17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:10,000円(税別) JSE非会員:20,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル対象	初・中級	
講師	三井住友海上火災保険 海損部部長(西日本海損担当) 小林 一貴 氏	
略歴	1990年 大正海上火災保険(現 三井住友海上火災保険)入社。以来約30年、東京、大阪、今治、広島で海上保険(主に船舶保険)の事故対応・保険金支払業務に従事。2018年より現職。	
概要	<p>船舶事故の際に発生する実務上の問題解決に向けて、船舶の所有者・運航者としてどのように考え・対応していくか、船舶保険に関連する領域の対応ポイントを中心に、事故を想定したケーススタディを通して具体的なイメージを持って理解できるよう解説します。</p> <p>船舶保険のカバー内容の説明はありませんが、船舶保険のパンフレットを通読したことがあれば理解できる講座となっています。</p> <p>なお、本講座は船会社の法務・保険にかかわる方はもちろん、海・工務担当の方や財務にかかわる方にもお勧めいたします。</p>	
内容	1	海外での衝突事案対応の留意点 ・衝突直後の運航者としての初動判断 ・衝突直後のシナリオ分析と裁判地の検討 ・経済損失最小化のための早期解決策模索 ・ケーススタディ
	2	事故に起因する本船のアレスト対応、海難救助契約の選択について ・漁船との衝突嫌疑による海外での差押さえ ・Alleged Salvageとは何か ・救助契約の強制(注意地域) ・銀行保証状が要求される場合と発行までの流れ・問題点 ・救助ケースにおける救助契約の選択 ・ケーススタディ

海運実務研修講座 30 「設問式船舶金融論(連続2日間)」

海事ビジネスを支える船舶金融の基礎解説と今後の展望



今年度 予定	2月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日 時	2019年2月18日(月)、19日(火) 13:30～17:00(途中休憩有)
場 所	日本海運集会所 会議室
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代含む。
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。
レベル 対 象	初・中級
講 師	早稲田大学 大学院 法学研究科 非常勤講師 木原 知己 氏
略 歴	1984年九州大学法学部卒業後、日本長期信用銀行(現新生銀行)入行。主として船舶融資を担当し、営業第八部長、高松支店長を最後に同行退職。 2005年に都内金融機関に入行し、船舶金融チームを立ち上げる。 2011年、青山総合会計事務所顧問に就任し、パートナー、海事スーパーバイザーを歴任。 現在は、船主向け経営コンサルティングの傍ら、ファイナンスアレンジなどに従事する他、早稲田大学大学院法学研究科非常勤講師(船舶金融法研究)、センチパートナーズ(株)代表取締役、海事振興連盟三号会員、海洋立国懇話会理事などを務める。
著 書	『船舶金融論—船舶に関する金融・経営・法の体系(2訂版)』(海文堂出版) 『シップファイナンス—船舶金融概説(増補改訂版)』(海事プレス社) 『船主経営の視座』(海事プレス社) 『波濤列伝—幕末・明治期の夢への航跡—』(海文堂出版) 『号丸譚—心震わす船のものがたり—』(海文堂出版) 『船舶金融法の諸相』(編著、成文堂)
概 要	船舶を建造・購入するときに必要な船舶金融の基礎(定義、体系、実務ほか)について、貸す側と借りる側双方の視点に立ち、初歩の金融論・船主経営論・法との接点を交えて設問式で解説します。 また、現状を分析し、船舶金融の深化・進化について考察することで、将来を展望します。
内 容	1.船舶金融(船舶融資)の定義および類型 2.船舶融資における融資可否判断基準 3.船舶融資の実務およびモニタリング解説 4.船主経営の課題 5.船舶金融の進化

海運実務研修講座 31 「定期傭船契約(全4回)」

定期傭船契約の基礎を学び現場で生かす

★★

今年度 予定	3月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日時	2019年2月28日、3月7日、14日、28日(毎週木曜日) ※3月21日は休講 15:30～17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:20,000円(税別) JSE非会員:40,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	初・中級 ラブル対応力向上のために、定期傭船契約の基本構造を学びたい方。	
講師	日本海運集会所 仲裁グループマネージャー 一戸 康佑 日本海運集会所 仲裁グループ 松下 千紗	
概要	NYPEシリーズの第8条に絡む諸論点の解説を通じて定期傭船契約の基本構造の理解を深めることをねらいとしています。	
内容	NYPEシリーズの第8条に焦点を当て、これに絡む諸論点について解説します。	
	1	指図と補償、荷役、B/Lの署名、安全港、戦争・海賊条項
	2	傭船期間、傭船料の支払い、引き揚げ
	3	Off-hire、Lien
	4	USCOGSA、堪航性、Maintenance、免責、仲裁

海運実務研修講座 32 「船舶売買の実務(全3回)」

船舶売買の手順とポイント、ケーススタディ

★★★

今年度 予定	3月頃
-------------------	-----

昨年度実施状況

日時	2019年3月5日、12日、19日(毎週火曜日) 15:30~17:00	
場所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対象	中級以上 実務経験3年程度(基本的な専門用語が分かる方)。	
講師	ティエッチマリンアンドエンタープライゼス 代表取締役 吉丸 昇 氏	
略歴	1957年中央大学法学部卒業。海運・造船関係の専門紙記者を経て1970年船舶売買のケープリングブローカーに転進し、1989年より現職。 著書に『船舶売買契約書の解説(改訂版)』(成山堂)がある。	
著書	『船舶売買契約書の解説(改訂版)』(成山堂) ※本講座ご受講の方に限り『船舶売買契約書の解説(初版・絶版)』(成山堂)を本体8,400円(税別)で購入できます。	
概要	船舶売買の商談の開始から売買の完結まで、実務上の重要ポイントと過去のトラブル事例、講師の体験談を踏まえて説明します。 第1回と第2回では、船舶売買契約書の全体像の理解を深め、第3回では、第1回、第2回の講義内容に関する質疑に続き、船舶売買の実務上の主な問題点を解説いたします。	
内容	1	商談の開始から成立(手付金の確認)まで、および船舶売買契約書の書式全般について (主な要旨) ・商談開始に関するAuthority とCommitment について ・見船を省略し検査記録の閲覧と積荷経歴や写真判定でオファー ・契約成立の国際解釈に二つの流れ ・国際取引で認知されない諸慣行 ・手付金の受領確認で諸手続きを開始 ・SALEFORM2012、SSF2011、PROTOTYPE等について
	2	売買契約書のプレアンブルと第1条から第15条までの説明、および追加条項についての説明 (主な要旨) ・プレアンブル作成の意義と注意点 ・トラブルの少ない条文作成のポイント(第1条から第15条) ・追加条項には取引の実態を詳細に反映させる
	3	船舶売買での実務上の主な問題点、質疑応答 (主な要旨) ・善良な買主の見分け方 ・契約の成立に二つの解釈 ・AS ISと船級維持証書との関係 ・売買代金授受の問題点 ・本船の引渡準備完了の意義と効力 ・本船引渡後の船主責任 ・実務上の損害賠償請求の範囲

海運実務研修講座 33 「エネルギー関連講座(仮)」

今年度
予定

未定

2019年度新規セミナー

場 所	
受講料	
定 員	
レベル 対 象	
講 師	
略 歴	
概 要	
内 容	

海運実務研修講座 「トラブル回避のための貿易実務(中級編)(連続2日間)」

トラブルやリスクの原因と対応策、その知識と実務ポイント

★★

今年度 予定	休講
-----------	----

昨年度実施状況

日 時	10月1日(月)、2日(火) 1日目 13:30~17:00(90分×2回、途中休憩有)、2日目 13:30~15:00(90分×1回)	
場 所	日本海運集会所 会議室	
受講料	JSE会員:15,000円(税別) JSE非会員:30,000円(税別) ※資料代含む。	
定 員	50名(JSE会員優先/先着順) ※定員になり次第締め切らせていただきます。	
レベル 対 象	初・中級 海運実務研修講座「貿易実務基礎」受講済みの方。(年度不問)またはそれに準ずる知識のある方。	
講 師	アースリンク 貿易アドバイザー 川村 久美子 氏	
略 歴	<p>大学卒業後、電子材料商社・電子精密部品メーカーにて一貫して仕入管理業務を担当。取引先の海外展開拡大に伴い、輸出・輸入業務全般も兼任。以降、実務部門の責任者として、新入社員のオリエンテーション、一般社員を対象とした貿易実務に関する勉強会等、社内研修の立案・計画も含めて社内講座を開催、講師を務める。定年退職後、株式会社アースリンクにて、これまでの豊富な実務経験を生かし、貿易実務、外為講師および企業の海外展開に関するアドバイザーとして本格的に活動開始。講師業のかたわら、株式会社アースリンクにおいて、貿易アドバイザーとして企業の海外展開のコンサルタント業務も行っている。</p> <p>貿易実務検定準A級、グローバルビジネス法務検定C級、教員免許「英語」中学1級、高校2級、図書館司書資格保持者</p>	
概 要	<p>今年の中級編は、貿易取引で起こりやすいトラブルやリスク(特に外国為替、代金決済、売買契約における)について、何が問題かを把握し、そのトラブルやリスクを回避、または軽減するため必要な知識や実務のポイントを正しく理解したうえで対応策を検討します。</p> <p>尚、本講座は、今年5月に実施した海運実務研修講座(4)貿易実務基礎の続編となります。基本的な知識があることを前提とした内容です。ご自身の知識の再確認、曖昧な知識を整理したい方などが対象です。</p>	
内 容	<p>10月1日 (月) 13:30~ 17:00 (90分×2 回、途中休 憩有)</p>	<p>1. 売買解約の締結</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売買契約書作成の重要性 ・注文書型、注文請書型契約書 ・タイプ条項と印刷条項 ウィーン売買条約 <p>2. 印刷条項の主要条項(英米法の考え方)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保証 ・クレーム ・知的財産権 ・不可抗力 ・紛争の解決 ・譲渡禁止 ・準拠法 ・包括合意条項 <p>3. インコタームズの留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貿易条件とは何か ・インコタームズとは何か ・費用負担の範囲と貨物の危険負担の範囲 ・輸送の手配は誰がするのか ・保険の手配は誰がするのか (休憩) ・貨物の危険負担と保険 ・輸送形態に適したインコタームズ(阪神大震災の問題点)

<p>内 容</p>	<p>10月2日 (火) 13:30～ 15:00 (90分)</p>	<p>4.外国為替とは ・為替とは ・外国為替とは ・銀行間のコルレス契約</p> <p>5.外国為替相場 ・外国為替市場のしくみ ・外国為替相場の種類 ・対顧客相場の見方</p> <p>6.先物相場の決まり方 ・先物相場とは ・直先スプレッドとは ・先物相場の決まり方 ・為替変動リスク回避策としての為替先物予約</p>
------------	---	--

※各講座の日程や詳細については、関係各位に【JSEメール通信】にて配信しています。
毎月16日前後に、翌月に開催する全ての講座・セミナーの概要をお知らせし、
また、各講座の開催日の3週間前に申込みフォームを添えて詳細をご案内しています。
配信をご希望の方は、project@jseinc.org 宛てにメールにて以下をお送りください。

1. 会社・法人名
2. 部署名
3. 役職名
4. 氏名(ふりがな)
5. メールアドレス

(注)個人アドレスは上記1～5を、グループアドレスは1, 2及び5をご記載ください。
複数のアドレスへの配信も承ります。

(お問い合わせ先)

一般社団法人 日本海運集会所 セミナーグループ
〒112-0002 東京都文京区小石川2-22-2 和順ビル3階
TEL 03-5802-8367 E-mail project@jseinc.org
HP <http://www.jseinc.org/index.html>

The Japan Shipping Exchange, Inc.

<http://www.jseinc.org/index.html>